

- ・速報／川崎市議会議員選挙
横浜市・相模原市との比較を交えながら
- ・かわさきの市民活動⑥／とどろき水辺の楽校
いのちの回廊 多摩川を遊ぶ
- ・川崎自治研/活動日誌
- ・川崎市の主な動き

速報 川崎市議会議員選挙 2019年4月7日

横浜市・相模原市との比較も交えながら

大矢野修・大橋嶺之介

4月7日、統一地方選挙の前半戦が終わり、11道府県知事、6政令市長と41道府県議員、17政令市の議員が決まりました。神奈川県知事選では黒岩祐治氏が3選を決めました。相模原市長選は4選を期した現職をふくめ4人で争われましたが、新人の本村賢太郎氏が当選しました。また、政令市・大阪市を廃止分割して東京都にない特別区の設置をめざす、いわゆる大阪都構想を争点とした大阪の知事・市長W選挙+府議、大阪市議選挙は、推進をめざす大阪維新の会がすべての選挙に圧勝しました。3つの政令市をかかえた神奈川にとって関心のある選挙の一つでした。統一地方選挙は、4月21日に後半戦として一般の市町村長・議員選挙が予定されています。本号では締め切りの関係もあり、速報というかたちで川崎市議会選挙に絞りましたが、同じ政令市である横浜市や相模原市との比較なども織り込み、今回の選挙の特徴について整理してみました。

区別	有権者数			投票者数			投票率 (%)			前回 投票率 (%)	前回 との差	前々回 投票率 (%)	前々回 との差
	男	女	計	男	女	計	男	女	計				
川崎区	100,819	83,764	184,583	36,267	34,557	70,824	35.97	41.26	38.37	40.80	△ 2.43	44.63	△ 6.26
幸区	68,778	66,235	135,013	28,745	28,949	57,694	41.79	43.71	42.73	42.47	0.26	46.86	△ 4.13
中原区	103,499	101,482	204,981	44,190	43,728	87,918	42.70	43.09	42.89	44.22	△ 1.33	48.09	△ 5.20
高津区	92,490	92,359	184,849	36,556	37,737	74,293	39.52	40.86	40.19	39.10	1.09	44.00	△ 3.81
宮前区	90,690	95,154	185,844	36,751	39,245	75,996	40.52	41.24	40.89	40.21	0.68	44.91	△ 4.02
多摩区	88,102	85,097	173,199	35,955	36,246	72,201	40.81	42.59	41.69	42.92	△ 1.23	46.66	△ 4.97
麻生区	69,358	74,218	143,576	30,649	32,576	63,225	44.19	43.89	44.04	44.75	△ 0.71	48.12	△ 4.08
川崎市計	613,736	598,309	1,212,045	249,113	253,038	502,151	40.59	42.29	41.43	41.98	△ 0.55	46.11	△ 4.68
横浜市計	1,412,700	1,453,685	2,866,385	595,509	622,152	1,217,661	42.15	42.80	42.48	42.00	0.48	46.73	△ 4.25
相模原市計	296,342	294,942	591,284	141,803	147,040	288,843	47.85	49.85	48.85	46.83	2.02	51.56	△ 2.71

進む世代交代、女性議員は増加

川崎市議会選挙の結果については、本文末の選挙区ごとの候補者別得票数の通りです。その一覧の他、関連する表をいくつかあげておきました。それらの表を参照しながら、今回の選挙の特徴をまとめてみます。

●低落続く投票率

投票率は市平均で41.43%でした。前回から0.55ポイント、前々回から4.68ポイント落ちており、低落傾向に歯止めがかかっていません。選挙区単位では平均を上回ったのは幸、中原、多摩、麻生の各区で、平均以下は川崎、高津、宮前でした。一番高いのは麻生区(44.04%)で最下位が川崎区(38.37%)です。ちなみに横浜市は42.48%で、前回比で0.48%の増ですが、前々回比では

4.25%の減で、基本的には川崎市と同じパターンで減少傾向にあります。相模原市は、対前回比で2.02ポイント増の48.85%でしたが、これは市長選の影響だと思われます。

●10人が勇退、新人が13人

2つ目の特徴はベテラン議員の勇退が多かったことです。その一覧は次ページ(表1)の通りですが、10人の方が勇退されました。それに代わり、(表2)のように計13人の新人議員が誕生しました。この表から、川崎市議会は今回の選挙を契機に世代交代の時期を迎えていることははっきり見ることができます。

●女性議員4増の15人に

3つ目は女性議員の割合です。今回の統一地方選挙は、議会選挙で候補者の数を男女同数にすることをめざす「候補者男女均等法」が成立(2018年5月)してはじめての選挙でした。候補者の

数からみれば、川崎市は立候補総数 81(定数 60)に対し 17 人で、割合でいえば 20%でしたので、けっして高くはありませんでした。なお選挙区でみれば、多摩区は候補者 11 人に対し 5 人で、平均を大きく上回っています。

では投票結果はどうだったのでしょうか。川崎市の女性議員は前年比プラス 4 の 15 人(女性の割合は 25%)になりました。横浜市はプラス 2 の 16 人(同、18.6%)、相模原市はプラス 1 の 10 人(21.7%)でした。数字的にみれば、まだ「候補者男女均等法」の趣旨を実現するには道遠の感があります。しかし今回当選した新人に目を向けますと、新人議員が 13 人のうち女性議員は 7 人で、割合でいえば 50%をクリアしています。この数字から、明らかに時代が変化しつつあることを確認できます。

●会派構成に変化なし「みらい」は明暗

党派別の当選者数は表4の通りです。川崎、横浜、相模原の 3 議会をあげておきました。自民党の占める議席割合は、川崎市が 31%、横浜市が 38%、相模原市が 32%で、自民党一党優位、他党横並びの構図は従来と変わらず、3 議会とも共通です。川崎市に関し、各党派の動向をすこし細かくみてみます。

自民党は新人を川崎区、中原区で1、多摩区 2 人の計 4 人擁立し、いずれも当選するなど党としての底堅さは変わりません。公明党は前回より2減の 11 人で選挙戦にのぞみ全員当選。相変わらず選挙上手のところをみせました。共産党は 12 人を擁立、うち 11 人が当選、議席を 10 から 11 に増やし、一定の発言力をもつ位置を保持しました。神奈川ネットは 1 で現状維持、無所属は 1 増の 8 人でした。注目は、議会内では同一会派「みらい」をくむ立憲民主と国民民主(以下、立民、国民と略す)の結果でした。

立民は新人 3 人をふくめ 9 人を立て 8 人が当選、2 増となりました。なお落選した宮前区の新人候補も約 150 票差の次点でしたし、当選した現職候補の得票も大半が前回より大幅に票を伸ばしています。これらの結果から、今回は立民に微風が吹いていたことが分かります。一方、国民は 5 人を立てましたが、当選は麻生区の現職 2 人のみでした。立民と国民は議会内では同一会派「みらい」をくんでいますので、会派「みらい」としては、川崎区で当選した無所属候補の 1 人を加え、投票結果が判明した現時点では、11 議席で前

回同様になります。なお立民と国民の選挙結果は横浜市会でも同様で、立民は 12→16 議席に対し、国民は5→2議席となっており、ここでも両党の明暗がはっきり分かれました。

(表4) 党派別当選者数

		自	立	国	公	共	維	自	希	社	ネ	諸	無	計
		民	民	民	明	産	新	由	望	民	ト	派	所	
川崎	計	19	8	2	11	11	0	-	0	-	1	0	8	60
	旧勢力	18	6	4	12	10	0	-	0	-	1	0	7	58
横浜	計	33	16	2	16	9	0	-	-	0	1	0	9	86
	旧勢力	31	12	5	16	9	1	-	-	0	1	0	11	86
相模原	計	15	6	4	8	4	-	-	0	1	-	0	8	46
	旧勢力	14	4	4	8	5	-	-	0	1	-	0	8	44

●ヘイト候補に市民の良識

川崎区と相模原市の 3 つの選挙区で、極右政治団体の日本第一党所属・推薦の新人 4 人が立候補しました。得票率はいずれも 1%前後(川崎区は 959 票、得票率 1.4%)に止まりました。ヘイト攻撃を明快に拒否する市民良識が発揮されたことが、この得票数から読みとれます。

議会改革への期待

自治体の政治は議院内閣制をとる国政とちがいで、市町村長や知事という首長と議員双方を市民の直接選挙で選ぶ二元代表制をとっています。自治体議会の主たる役割は、制度上大きな権限をもつ首長に対するチェック機能にあります。しかし 2000 年の分権改革を機に、その機能に比べ市民にヨリ開かれた議会運営、さらに議会の政策形成能力の向上を主眼とする議会改革が強く求められるようになりました。2000 年以降、全国の自治体で議会基本条例の制定が盛んになっていますが、その背景にはこうした時代の流れがあります。少し古い資料ですが、2017 年 7 月現在で、都道府県 31、市町村で 766、計 797 自治体が条例化しています。川崎市議会も 2009 年に制定しています。

議会の政策形成能力が高まれば、議会のイニシアティブで条例を提案する動きも活発になるはずですが、現在は残念ながら、条例提案はほとんど首長(行政側)からしか提出されていません。川崎市も同様です。政策形成能力をふくめ市民に開かれた議会になるには、まず議員 1 人ひとりの対話・討議能力をあげることが重要になります。対話・討議は、対市民はもちろん首長・職員との間、さらに党派・会派をこえ議員相互の間でも欠かせません。しかし現実には、そうした機運をうながす市民を巻き込んだシカケがなければ、あるべき論で終わってしまうのも確かです。市民に開かれた議会と議員の政策能力向上を中核とした議会改革に向け、いま川崎で起きている胎動を 2 つ紹介します。

1つは麻生区選出の全議員と区民によるヒロバづくりです(名称は「市政を語り合おう de 麻生」)。麻生区民と地元の学生からなる実行委員会方式で、超党派の市議 7 人と市民が車座方式で福祉、教育、子育て、まちづくりの在り方をめぐり自由に意見を交わす試みが行われています。もう1つは、今回の川崎区市議選で、地元の若宮八幡宮の宮司の呼びかけで開かれた「候補者から政策を聞く会」

の開催です。かつての立会演説会を思い起こすような動きですが、麻生区のようなヒロバづくりにつながる大事な一歩といえます。

議会改革とは何か、と大げさに考える必要はなく、要は議員と市民が気軽の出会いえるヒロバづくりを通し、議員と市民、さらに市民同士、議員同士が対話・討論を積み重ねる過程をへて創られていくものだろうと思います。漏れ聞かところでは、新庁舎建設を機に、市議会の議場をこれまでのように議員席から一段高い位置に首長以下、行政側がならぶ配置から対面式に変更しようという意見もあるそうです。これもまた議場そのものを対話と討議のヒロバに変える貴重なアイデアだと思います。こうした発想をいくつか組み合わせながら、今回の世代交代を機に、さらなる活力に満ちた川崎市議会が実現することを期待したいと思います。

川崎区 投票率：38.37%（前回：40.80%）

結果	候補者名	党派名	得票数(得票率)
当	嶋崎 嘉夫	自民	8,779 (12.7%)
当	飯塚 正良	立民	8,590 (12.4%)
当	本間 賢次郎	自民	8,318 (12.0%)
当	浜田 昌利	公明	7,927 (11.4%)
当	山田 瑛理	自民	7,132 (10.3%)
当	浦田 大輔	公明	6,402 (9.2%)
当	後藤 真左美	共産	6,151 (8.9%)
当	林 敏夫	無	3,756 (5.4%)
当	片柳 進	共産	3,756 (5.4%)
	林 浩美	無	3,384 (4.9%)
	佐野 仁昭	無	3,347 (4.8%)
	佐久間 吾一	無	959 (1.4%)
	柚場 和敏	無	812 (1.2%)

幸区 投票率：42.73%（前回：42.47%）

結果	候補者名	党派名	得票数(得票率)
当	野田 雅之	自民	11,446 (20.3%)
当	鏑木 茂哉	自民	7,929 (14.0%)
当	渡辺 学	共産	7,268 (12.9%)
当	田村 京三	立民	6,998 (12.4%)
当	河野 忠正	公明	6,364 (11.3%)
当	沼沢 和明	公明	5,731 (10.1%)
当	秋田 恵	無	5,213 (9.2%)
	山田 益男	国民	4,911 (8.7%)
	牧 浩美	幸福	636 (1.1%)

中原区 投票率：42.89%（前回：44.22%）

結果	候補者名	党派名	得票数(得票率)
当	押本 吉司	立民	12,360 (14.4%)
当	原 典之	自民	9,450 (11.0%)
当	川島 雅裕	公明	9,069 (10.5%)
当	吉沢 直美	自民	8,509 (9.9%)
当	末永 直	自民	8,121 (9.4%)
当	松原 成文	自民	7,317 (8.5%)
当	重富 達也	無	6,271 (7.3%)
当	大庭 裕子	共産	6,164 (7.2%)
当	市古 次郎	共産	6,139 (7.1%)
当	松川 正二郎	無	4,325 (5.0%)
	松井 孝至	国民	3,709 (4.3%)
	小松 雄也	諸派	3,066 (3.6%)
	石井 敦也	無	1,543 (1.8%)

高津区 投票率：40.19%（前回：39.10%）

結果	候補者名	党派名	得票数(得票率)
当	青木 功雄	自民	13,261 (18.2%)
当	岩隈 千尋	立民	8,490 (11.7%)
当	堀添 健	立民	8,142 (11.2%)
当	大島 明	自民	6,338 (8.7%)
当	平山 浩二	公明	6,160 (8.5%)
当	春 孝明	公明	5,440 (7.5%)
当	齋藤 伸志	自民	5,397 (7.4%)
当	小堀 祥子	共産	4,973 (6.8%)
当	宗田 裕之	共産	4,351 (6.0%)
	鈴木 昭徳	無	3,643 (5.0%)
	岩田 英高	無	2,579 (3.5%)
	廣井 竣	維新	2,255 (3.1%)
	下山 玲子	無	1,753 (2.4%)

宮前区 投票率：40.89%（前回：40.21%）

結果	候補者名	党派名	得票数(得票率)
当	矢沢 孝雄	自民	9,821 (13.2%)
当	石田 康博	自民	9,232 (12.4%)
当	添田 勝	無	8,215 (11.0%)
当	織田 勝久	立民	7,629 (10.2%)
当	田村 伸一郎	公明	6,613 (8.9%)
当	浅野 文直	自民	6,206 (8.3%)
当	山田 晴彦	公明	5,963 (8.0%)
当	大西 いづみ	ネット	5,129 (6.9%)
当	石川 建二	共産	4,106 (5.5%)
	藤永 忠	立民	3,951 (5.3%)
	佐藤 純一	共産	2,754 (3.7%)
	坂巻 良一	諸派	2,442 (3.3%)
	中本 誠	無	1,859 (2.5%)
	小長井 哲也	希望	619 (0.8%)

多摩区 投票率：41.69%（前回：42.92%）

結果	候補者名	党派名	得票数(得票率)
当	河野 ゆかり	公明	9,834 (13.9%)
当	橋本 勝	自民	8,380 (11.9%)
当	吉沢 章子	無	8,365 (11.8%)
当	露木 明美	立民	8,285 (11.7%)
当	上原 正裕	自民	6,869 (9.7%)
当	各務 雅彦	自民	6,499 (9.2%)
当	井口 真美	共産	6,326 (9.0%)
当	三宅 隆介	無	5,717 (8.1%)
当	赤石 博子	共産	4,663 (6.6%)
	井野 大輔	無	3,254 (4.6%)
	岡部 裕三	国民	2,482 (3.5%)

麻生区 投票率：44.04%（前回：44.75%）

結果	候補者名	党派名	得票数(得票率)
当	山崎 直史	自民	10,050 (16.1%)
当	鈴木 朋子	立民	8,836 (14.2%)
当	月本 琢也	無	7,927 (12.7%)
当	花輪 孝一	公明	7,803 (12.5%)
当	雨笠 裕治	国民	7,770 (12.5%)
当	勝又 光江	共産	6,777 (10.9%)
当	木庭 理香子	国民	6,713 (10.8%)
当	老沼 純	自民	6,364 (10.2%)

クローズアップ/川崎の市民活動⑥

いのちの回廊 多摩川を遊ぶ

とどろき水辺の楽校

全国の河川をフィールドに、世代をこえて体験学習・環境学習などの活動が活発に展開されている。川崎にも多摩川流域に3つの活動拠点がある。宿河原堰の「かわさき水辺の楽校」、二子橋～丸子橋周辺を舞台とした「とどろき水辺の楽校」、多摩川河口の「だいし水辺の楽校」である。対岸の大田区、世田谷区にも同様の拠点があり、日ごろから交流は盛んである。多摩川には上流・中流・下流に同趣旨の「楽校」が20もあるという。発端は1996(H8)年、国土交通省がよびかけたプロジェクトだが、活動の内容や実施主体は千差万別である。

話をうかがったのは「NPO 法人とどろき水辺」事務局長の鈴木眞智子さんである(理事長は御前大氏)。鈴木さんから渡された名刺には「多摩川眞智子」とあった。この名刺が象徴するように、鈴木さんの語りから、多摩川への想いがじんと伝わってくる。

「水」がつくる川崎のかたち

川崎の地勢は大きく多摩丘陵・多摩川流域・臨海部の3つの地域から成り立っているが、この3つの地域をつなぎ、現在の川崎を根底で束ねてきたのが「水」であった。

多摩丘陵の細長く入りくんだ場所にいまも谷戸(やと)の地名が残っている。谷戸とは丘陵の谷筋にそって流れる小河川の低地であり、そこは古代・中世より日々の暮らしの水と耕作の水を得る貴重な場所であった。また暴れ川の異名をもった多摩川は、たびたび替わる流路により沖積低地とよばれる低地と自然堤防となる微高地をつくる。微高地には集落ができ、周囲の低地は農耕地として利用されてきた。集落はあたかも平地に浮かぶ島のようなものであり、いまもその記憶をよびおこす地名がいくつか残っている。

多摩川流域の低地が本格的に開発されたのは江戸初期だが、流域の耕作地に安定した水を供給するため、開削されたのが二ヶ領用水であった。二ヶ領用水は中野島ついで宿河原から多摩川の水を引き入れ、全長33キロ水田約2000町を灌漑し、60カ村の暮らしを支えてきた。

多摩川下流の河口域に目を転じれば、明治期の埋め立て造成で、一大工業地帯が築かれる。しかし、それ以前の河口地域は多摩川の旧河道が縦横に走り、湿地や沼地が広がり、大雨になれば悪水がいつまでも溜まる土地柄だった。住民は悪水と闘いながら、用水路を開削して水田を確保、また生活用水のための堀をつくった。臨海工業地帯でも水と闘い、水の力を巧みに活かすドラマをくりかえしながら、今日の姿になる原形が築かれてきた。ここにも母なる川・多摩川の存在があった。

かの子文学に想いを寄せながら

二子橋の近く二子神社の境内に、「誇り」と名づけられた記念碑が建っている。作者は岡本太郎である。くねるような曲線の白い彫刻は炎のようでもあるし、空にむかって大きく肢体をひろげた白鳥のようにも見える。その横には岡本かの子の文学碑があり、亀井勝一郎の文章と川端康成の書による碑文が添えられている。碑文に

「岡本かの子は明治22年3月1日誕生し 多摩河畔二子の郷家にて成長せり…(略)旧家の血脈と多摩川の清流とはかの子の生命に深く愛染し 作品のうちに多様なすがたをもって表現されたり…(略)」とある。

かの子に「河明かり」という小説がある。「河には無限の乳房のような水源があり、末にはまた無限に包容する大海がある。この首尾を持ちつつ、その中間に於いての河なのである。そこには無限性を蔵さなくてはならない。」この河に仮託した生命の始源と再生のイメージは、かの子16歳の歌集に収められた一首「多摩川の清く冷たくやはらかき水のころを誰に語らむ」から晩年の小説まで変わることなく、かの子文学をつらぬいている。鈴木さんはこの歌を口ずさみながら、遠く自身が生い育った石狩川河口の川と海が交わる暮らしを思い起こすように、水辺の楽校の多彩な活動について語りはじめた。



小学校での出前授業(講師は鈴木眞智子さん)

原点は「川と遊ぶ」

鈴木眞智子さんの多摩川との関わりは、自分の子どもが小学生の時、担任に「等々力土手の桜並木復活を手伝ってほしい」と声をかけられたことから始まっている。「多摩川さくらの会」(1999年設立)の名で、河津桜や大島桜などの幼木を植樹。その後その桜並木を維持・管理するため「等々力のさくらを愛する会」が組織されるが、鈴木さんはその中心的役割をにない、活動はいまも続いている。その後市政70周年を契機に建設された二ヶ領せせらぎ館の運営のため組織されたNPO法人「多摩川エコミュージアム」(2002年)の事務局長、さらに同年スタートした「とどろき水辺の楽校」の代表幹事となり、多摩川のいわば主(ぬし)のごとき存在になっていく。

とどろき水辺の楽校の年間スケジュールは、水ぬるむ4月の開校式から翌年2月の活動報告シンポジウムまでびっしりつまっている。中原区の各町内会や小中学校、漁業組合などから集まった人たちが幹事会を構成、等々力地先と支流のぎょうらん川一帯を活動のフィールドにしている。川崎の3つの楽校合同で河口の干潟観察会も実施している。

活動分野は多岐にわたるが、原点は「川と遊ぶ」ことにある。春に川べりの野草を観察、採取して天ぷらにして食べたり、夏になれば、カッパのように流れに身をまかせ、川の冷たさや流れの音を聞き、魚を追いかける。また釣りや投網、カヌー教室など、何より五感を使って川に親しみ、川の魅力を体感すること、これが原点だと鈴木さんは強調する。そうした活動に流域の小中学校が注目し、多摩川の生き物(植物、昆虫、魚類、野鳥)の観察や人々との交流の歴史などが総合学習のカリキュラムとして組み入れられていく。夏休み自由研究のお助け企画もある。活動範囲は源流体験キャンプから河口の干潟観察まで、多摩川流域全体にわたる。

いのちの回廊・多摩川の発見

鈴木さんによれば、川は「境目」が面白いという。水辺の叢(くさむら)は川と陸の境目であり、そこには魚の他、多様な生き物が棲息している。楽校では水辺の生き物探検を「ガサガサ」と称している。このガサガサ探検は川崎環境総合研究所や小中学校との協働事業で、10年近い実績をもっている。

境目へのまなざしは、生き物探検だけでなく、人々の暮らしの記憶をも蘇らせてくれる。丸子橋近辺から対岸の大田区丸子を結ぶ渡し船「丸子の渡し」の復活がそれである。多摩川は丸子の他、兩岸に同じ地名をもつ場所がおおい。地続きだった地域が、蛇行する流路を改修する際に分断されたためだが、渡し船はかつての地づづきの時代を追憶するように宇奈根や二子でも復活し、「渡し場サミット」開催へと発展していく。子どもたちは古老の話を聞きながら、右岸と左岸の歴史を教わり、また「渡し」の復活を通して、何をもちつて兩岸の境目をつなぎ合わせるか、構想力を働かせる。



渡し場の復活体験(丸子橋下)

1960年代の高度経済成長時代、多摩川は生活排水や工場からの排水で瀕死の状態になるが、いまではアユが遡上するまでになっている。

アユは川で産卵し、稚魚の段階で海に流下し育つ。サケ(鮭)も同じ生態だが、アユはサケとちがい河口干潟の波打ち際で育ち、春になると川を遡行して成魚となり、秋に産卵して短い生涯を終える。アユは誕生の場と成長の場を変えつつ、多摩川流域をいのちの回廊にして一生を終える。アユの産卵場所の一つが二子橋から平瀬川合流付近の瀬(河口から18キロ)にあることが分かっている。

ウナギの回遊はもっとスケールが大きい。ウナギの産卵場所は謎のようだが、どうやら日本から2000キロ離れた太平洋のマリアナ海域だということが分かってきた。



安全講習・河童の川流れ(等々方地先)

子どもたちは多摩川のウナギやアユの生態観察を通して、地球的スケールで多摩川をとらえ、海と川の境目、さらに河口と中・上流域の境目に目をこらしながら、多様な生き物が始源と再生のドラマをくり返すくいのちの川を知る視点を獲得していく。

もちろん水辺の楽校の子どもたちは、アユやウナギの観察によって回遊の科学的メカニズムを正確に理解する訳ではない。だが生き物の観察を通して、多摩川流域全体が生きた川として、いのちの循環の回廊を内懐にかかえていることを、直観的であれ感受している。鈴木さんへの取材から2日後、川崎の3楽校と大田区、世田谷区合同の「水辺の楽校シンポジウム」を聞かせてもらったが、子どもたちの発表からそのことを確認することができた。

いのちの回廊は、河口の干潟でも見ることができる。干潟は、陸地と水が交わる境目である。多摩川河口の干潟は東京湾最大規模といわれるが、干潟は淡水と海水が混じり合う汽水域であり、干潟には汽水域に適応した多様な生き物(植物、魚介類、水鳥等々)が棲息している。水と陸が交わりたえず変化する干潟は、まるで呼吸する一つの生き物のように生きている。

取材を終え、多摩川眞智子の名刺をあらためて手にしながら、彼女が多摩川に託して何を語りたかったのか、少し理解できたような気がした。

(記:大矢野修)

川崎自治研／活動日誌 2019年1月～3月

1月

- 10日 生活クラブ運動グループ 新春を祝う会
- 15日 ヘイトスピーチを許さないかわさき 市民ネットワーク 事務局会議
- 18日 神奈川ネット運動 新春に集う
- 19日 ヘイトスピーチを許さないかわさき 市民ネットワーク ヘイト街宣抗議行動
- 22日 ストップブルトニウム神奈川連絡会 総会・講演会
- 31日 2017年度第2回自治研センター総会

2月

- 5日 ヘイトスピーチを許さないかわさき 市民ネットワーク 事務局会議
- 10日 第34回平和と生活のつどい
- 11日 ヘイトスピーチを許さないかわさき 市民ネットワーク 反ヘイト街宣行動
- 12日 自治労 地方財政セミナー
- 18日 ヘイトスピーチを許さないかわさき 市民ネットワーク 事務局会議

- 18日 県本部 第2回政策委員会

- 19日 かわさき自治研ゼミ 「立憲民主党 大阪府 連合政策集を読む」
- 22日 川崎自治研センター 新春のつどい
- 27日 ヘイトスピーチを許さないかわさき 市民ネットワーク 事務局会議

- 28日 県本部 地方財政セミナー

3月

- 9日 ヘイトスピーチを許さないかわさき 市民ネットワーク 条例制定へ向けた学習会
- 12日 ヘイトスピーチを許さないかわさき 市民ネットワーク 事務局会議
- 21日 さようなら原発全国集会
- 26日 県本部 第3回政策委員会
- 29日 ヘイトスピーチを許さないかわさき 市民ネットワーク 事務局会議

川崎市の主な動き 2019年1月～3月

1月

4日 「型」を破っても市民に寄り添う仕事を 市長年頭あいさつ

福田市長は仕事始めの4日、年頭あいさつを行い、前例踏襲からの脱却を求め、「わたしたちの仕事は『型』が大事だが、市民に寄り添う仕事をするには、時として型を破ることも必要。法律や制度がおかしいなら、国や県にも改正を求めていく。市民が一番近い誇りある仕事をしていることを認識し、市民の中に飛び込み深い信頼関係を築き、いい仕事をしよう」と話した。

7日 20年就役予定の消防艇名称「かわさき」に 消防局

市消防局は、2020年3月に就役予定の新しい消防艇の名称を「かわさき」に決定した。新消防艇は旗艦になるもので、5つの候補名のなかから市ホームページに寄せられた629票のうち最多の204票を集めた。次点は「うみかぜ」で177票だった。歴代の消防艇は慣例で「川崎丸」と名付けられてきたが、今回初めて市民から名称候補を募集し投票を呼び掛けた。

14日 「とどろきアリーナ」に新成人6772人

成人の日の14日、市など主催の「成人の日を祝うつどい」がとどろきアリーナであり、6,772人が式典に参加した。福田市長はあいさつで、1924年の川崎市制施行の1年前に関東大震災が発生したことや、川崎空襲など大きな被害があった歴史に触れ、若者の力強さが復興に与ったなどと語った。市内の新成人は昨年11月末時点で、前年比206人増の1万4,187人。

15日 新たな動物愛護センターの愛称「アニマモール」に

市は15日、中原区上平間に2月オープンする新しい動物愛護センターの愛称を「ANIMAMALL(アニマモール)かわさき」に決定した。愛称は727点の応募作品からウェブ投票や近隣の小学生の投票で最多の票を獲得した小学5年の橋本隆之介君(川崎区)の案で、英語の「ANIMAL」を基に、「動物を守る」と「動物のための施設」を組み合わせたものという。

17日 東芝の研究用原子炉(川崎区)廃止へ

東芝は、東芝原子力技術研究所(川崎区)にある研究用原子炉の一種、東芝臨海実験装置(NCA、最大出力200ワット)を国の原子力規制委員会に廃止措置計画の認可を申請する。NCAは63年に初臨界し、発電用原子炉の燃料や制御棒の基礎研究で若手技術者を受け入れてきた。東日本大震災の際は運転停止中で、2014年からは定期検査中。

21日 京急開業120周年祝う 京急川崎駅で式典

京急急行電鉄(港区)は開業120周年を迎え21日、京急川崎駅大師線ホームで記念式典を行った。120年の歩みの象徴と、新たな出発点として数字の「0」をあしらったステンレス製モニュメントを大師線0キロポスト横に設置。京急は前身の大師電気鉄道が1899年1月21日、旧東海道川崎宿に近い六郷橋駅から大師(現・川崎大師)駅間の約2キロで運行を開始した。

23日 横浜市営地下鉄の新百合ヶ丘延伸へ 2030年開通

市と横浜市は23日、横浜市営地下鉄ブルーラインのあざみ野駅(青葉区)から小田急新百合ヶ丘駅までの延伸を2030年の開業に向けて事業化すると発表した。約6キロの延伸区間は地下トンネル構造で、嶮山交差点(青葉区)付近、すすき野(同)付近、新百合ヶ丘駅南口付近などに4駅が新設される。市内のルートは市が主導して検討しており、麻生区王禅寺の「ヨネットイ王禅寺」付近を通るルートが既存のバス路線と連携が取れるなど整備効果が高く有力。総事業費は約1800億円、市は約215億円負担し、国の補助385億円、横浜市の交通局への約575億円の出資、企業債約625億円などで賄う。

23日 在日1世らが出版 識字学級で学び半生を綴る

川崎区桜本にある交流施設「ふれあい館」で日本語を学んだ、在日コリアンの女性らが綴った生活史「わたしもじだいのいちぶです」が出版(日本評論社)された。本の題名は在日コリアン1世の92歳の徐類順さんの文章からで、差別や貧困など社会と時代に翻弄された半生が綴られている。識字学級の生徒の多くは戦前から日本に住む女性で、参加者の一人が炭鉱労働の経験を作文にしたところ、出版社がクラウドファンディングで制作費を集め出版した。全国の書店で発売中(2000円)。

25日 京急駅名変更「産業道路」を「大師橋」に 来年3月から

京急電鉄は25日、「産業道路駅」を来年3月から「大師橋駅」に変更すると発表した。同駅近くの上田町内会の会長は、産業道路駅は排ガスや公害のイメージがあり駅名変更を喜ぶ。また大師銀座商店街の会長は、川崎大師の門前町として発展してきた地域なので「大師」の名が付き親しみが持てると話した。駅名変更は京急創立120周年記念事業の一環で小中学生の公募案を参考に決められ、他に花月園前が花月総持寺、仲木戸が京急東神奈川、新逗子が逗子・葉山に変更される。

30日 フロンターレが「スポーツ振興」に市へ1億円寄付

サッカーJ1川崎フロンターレはスポーツ振興に充ててほしいと市に1億円を寄付した。市への寄付は3度目、過去にナビスコ杯(当時)で準優勝した際は賞金5千万円を寄付し、今回は過去最高額。フロンターレはリーグ連覇を果たすなど好調で、ホーム戦でのチケットの完売が相次ぎ、グッズ販売の収益も伸び、今期の営業利益は過去最高並みという。30日薬科義弘社長が市役所を訪れ、「何もないところから市民に支えられてここまで来られた。市民に還元したい」と話した。

2月

3日 新しい動物愛護センター「ANIMAMALL」完成

市の新しい動物愛護センター「ANIMAMALL(アニマモール)かわさき」が中原区上平間に完成し、3日に記念式典を行った。センターは高津区にあった1974年開所の施設が老朽化し移転したもので、3階建ての新施設では保護した動物の譲渡や健康管理、動物愛護の普及啓発を行い、人と動物の交流の場にする。総工費は約10億2千万円。

4日 一般会計3%増過去最大7590億円 19年度予算案

市は4日、2019年度当初予算案を発表した。一般会計は前年度当初比3.0%増の7591億円。5年連続過去最高額を更新。30年度まで人口増が続くとされる状況下、堅調な市税収入が見込まれる一方、待機児童対策など子育て事業をはじめとする扶助費の増加が顕著になっている。福田市長は「減債基金からの借り入れを圧縮するとともに、成長戦略を進めなければならず苦しかった。都市拠点や交通環境など基盤づくりに配慮した」と述べた。

4日 ふるさと納税増へ返礼品拡充

ふるさと納税の返礼品競争で税の「流出」が増えている市は4日、寄付を呼び込むため返礼品の拡充などを図ると発表した。19年度の目標寄付額を従来の約4倍の2億円に設定し、サッカーJ1で連覇した川崎フロンターレ関連の返礼品や学校を指定した寄付、浮世絵活用事業への寄付などを検討している。市によると制度に基づく市への寄付額はここ数年2~5千万円ほど。一方、市民が他の自治体に寄付したことに伴う税収減は15年度2億円だったが、年々増えて18年度は43億円の見込み。この額は、保育の定員を約2600人分拡大できる額という。

4日 宮前区役所など鷺沼駅前に移転へ

市は4日、東急田園都市線鷺沼駅で計画されている再開発事業にあわせ、宮前区役所と市民館、図書館を移転する基本方針案を発表した。区役所は鷺沼駅北側街区に建設予定の都市型住宅の低層部に移転、道路を挟んだ駅前街区に交通広場や商業施設を整備、上層階にホールを含む市民館と図書館を設ける。2026年度までに市民館と図書館を先行オープン、区役所は30年度までの供用開始を目指す。現区役所の跡地は売却せず今後、活用方法を検討。

5日 市バス料金10月から値上げ210円を220円へ

市は、市バスの料金を現行の210円から220円の値上げするため、条例改正案を12日開会の市議会定例会に提案する。燃料費の高騰や車両更新費用の確保などが理由で消費税率が上がる10月から実施する予定。値上げは消費税率が5%から8%に上がり増税分を転嫁した2014年4月以来で、今回は税率が10%に引き上げられる分と運賃を合わせて値上げする。運賃の値上げは1995年3月以来で、191円から200円になり乗客が支払う料金は220円となる。

15日 川崎大師の「念仏」を市文化財に指定

市教育委員会は、川崎大師平間寺(川崎区)で行われている「川崎大師引声(いんじょう)念仏・双盤念仏」を市文化財(重要習俗技芸)に指定した。引声念仏は1834年、当時の和尚が本堂再建を期して始められたとされ、弘法大師像前の御簾を開閉する際の約十分間、鉦をたたきながら節を付けた念仏を唱える。双盤念仏は1897年頃に始まり、三つの鉦と一つの太鼓を使い、十四の曲目の念仏と鉦で約四十分間続く。市文化財審議会の答申を受け8日指定された。

23日 22年開学へ基本計画案 四年制市立看護大

市は、2022年4月の開学を目指す四年制看護大学の整備基本計画案をまとめた。現行の市立看護短期大学(幸区)の施設を活用し、一学年の定員を80人から100人にする。四年制への移行は、医療の高度化やニーズの多様化への対応、看護人材の安定的な確保が狙い。保健師の育成に向け、新たに保健師養成コースの設置を検討する。

26日 ドラえもん一色に新装 小田急登戸駅

小田急線登戸駅(多摩区)の構内に人気漫画「ドラえもん」のキャラクターをあしらった装飾が施され、26日に完成式典が行われた。同駅はドラえもんの作者の作品などを紹介する「市藤子・F・不二雄ミュージアム」の最寄り駅。駅名標や室内看板、ゴミ箱はドラえもんを象徴する青と白の地に赤いラインと黄色い鈴の絵を入れた「ドラえもんカラー」。デジタル技術を活用した「どこでもドア」も設置し、その前を通るとドアが開き、箱根や大山、江ノ島などの映像が流れる。

27日 市内初の地下駅完成 産業道路駅

京急大師線小島新田一東門前の地下トンネル(約980m)と地下化される産業道路駅の完成記念式典が27日、同駅で開かれ、市や京急、地元町内会関係者らが市内初の地下駅などの完成を祝った。現在の地上駅は3月2日で終了し、線路の切り替えや踏切の除去が終電後に行われ、3日午前10時頃から地下駅が利用できる。地上駅や産業道路第1踏切には連日、鉄道ファンらが訪れカメラに収めている。同駅は来年3月3日に「大師橋駅」に改名される。

28日 川崎のみ自然増 県内の人口統計調査

県は28日、昨年1年間の人口統計調査の結果を発表した。県内31市町村で出生数が死亡数を下回る自然減となったが、川崎市だけが自然増(2527人)だったと発表した。開成町が出生数と死亡数が同数のほかは自然減で、横浜市が最多の5596人、横須賀市2443人、相模原市1256人と続いている。市区町村別で人口増の多かったのは、再開発でマンションが増え、若い世代が流入している中原区の4128人増がトップだった。

3月

- 1日 風呂で「フロ」ンターレ応援 銭湯でPV観戦
サッカーJ1 川崎フロンターレは、1日午後7時に等々力陸上競技場(中原区)での鹿島アントラーズ戦を、銭湯「千年温泉」(高津区千年新町)で観戦できるパブリックビューイング(PV)を開催する。チーム名の「フロ」と「風呂」を掛け合わせた川崎浴場組合連合会との共同企画。男湯と女湯を隔てる壁の上に専用のスクリーンをつくり、男女とも湯船につかりながら観戦できる。PVは午後6時からだが、観戦後のサポーターにも足を運んでもらおうと、午前零時の閉館まで映像を流す。
- 6日 宮前区役所移転案に反対意見1万3千余通
東急田園都市線鷺沼駅前(宮前区)での再開発事業に合わせて区役所などを移転する基本方針案について、同区民らでつくる「鷺沼駅前再開発と区役所移転を考える会」(小久保善一共同代表)は6日、1万3858通の市民意見(パブリックコメント)を集め市に提出した。2月22日から3月6日までの短期間にこれだけ集まったのは市民が納得していないことの表れとしている。市民合意を図ることや現在の市民館・図書館は残してほしいなどの意見が多かったという。
- 10日 脱原発を訴え市民集会 約1300人が参加
脱原発を呼び掛ける市民集会「原発ゼロへのカウントダウン in かわさき」が10日、中原平和公園で開かれた。東日本大震災と東京電力福島第1原発事故から8年となるのを前に、避難生活を余儀なくされている事故の被害者らがエネルギー政策の転換を訴え、参加者約1300人が「未来のために原発をなくそう」とデモ行進した。集会は脱原発を目指して市内の団体・個人で結成された実行委員会の主催で、震災翌年から毎年3月11日に合わせて千人規模の集会を開いてきた。
- 11日 「差別根絶」の人権条例骨子案を提示 罰則も検討
市は11日、差別のない人権尊重のまちづくり条例(仮称)の骨子案を市議会に提示した。人権施策の計画的な推進を市の責務と定め、不当な差別の定義を「人権、国籍、民族、信条、年齢、性別、性的指向、性自認、出身、障害その他の事由」で不公平に取り扱うこととした。ヘイトスピーチについてはインターネット上を含めて市での実態を踏まえ「実効性を確保する措置」を講じる。罰則規定を盛り込むか否か表現の自由との整合性を検討する。最終的な条例は12月議会に提出する方針。
- 13日 トーマスを市のPR大使に 五輪の英国事前キャンプ
2020年東京五輪・パラリンピックの英国代表選手団の事前キャンプ地となる市は13日、PR大使に同国の人気キャラクター「きかんしゃトーマスとなかまたち」を起用することを決めた。同キャラクターと行政のコラボレーションは初めて。きかんしゃトーマスは1946年英国人牧師が描いた絵本のキャラクターで、84年に映像化され、現在160以上の国や地域で放映されている。トーマスが「BEST FRIENDS」の文字などでデザインされ、事前キャンプ地を周知するポスターなどに使用する。
- 16日 認可保育7人に1人落選 川崎市「不足」最多の3019人
今年4月入所の認可保育所1次選考に申し込んだ0~2歳児のうち7人に1人が入れなかったことが、共同通信の調査でわかった。(政令市と東京23区、昨年の待機児童100人以上の75自治体に調査。62自治体から回答)。申し込み者は176,966人、落選者は24,799人で、申し込み者に占める割合は約14%。保育所の受け入れ枠が足りない「不足」が生じていたのは55自治体で、最多は川崎市の3019人、次いで横浜市、さいたま市などで1000人以上の不足は8自治体。一方、施設整備も進み、回答した自治体の半数以上で昨年より不足数が改善。広島市や新潟市など7自治体で不足がなかった。
- 19日 住宅地6年・商業地7年連続で全区上昇 市の公示地価
国土交通省は19日、今年1月1日時点の公示地価を公表した。県内は、住宅地、商業地、工業地の全用途で、平均変動率が2年連続上昇。市内では、複々線化で輸送能力が向上した小田急沿線の登戸、向ヶ丘駅周辺で上昇幅が拡大。住宅地では6年連続、全区で地価が上昇し、タワーマンションが林立する武蔵小杉駅近くの地点は高値警戒感から3年連続県内2位に。商業地では川崎、横浜駅周辺で不動産市況の活性化による空き室率低下などで上昇率の拡大が続いた。
- 23日 11年ぶり114校目の小学校4月開校 人口急増の武蔵小杉
高層マンションが立ち並び人口が急増する武蔵小杉駅周辺に4月開校する市立小杉小学校(中原区)が完成し、23日竣工式と内覧会が開かれた。市内114校目で、11年ぶりの新設小学校。西丸子小と今井小の学区を分離し、初年度は約370人の児童が通う。鉄筋・一部鉄筋造りの5階建てで普通教室は18あり、今後の人口増に備え最大で30教室まで増やせる。敷地は日本医科大学が再開発を計画中の同駅北側地区の約1万㎡で33年の定期借地。事業費は約49億円。
- 31日 「おさかなポスト」今月で廃止 「さかなの家」閉園で
家庭で飼えなくなった魚などを受け入れ、飼育できる人を探す多摩区稲田公園の「おさかなポスト」が31日、同ポストが設置されている「市さかなの家」が閉園になったため廃止された。さかなの家は、アユやコイなどの稚魚を育てる畜養池として川崎河川漁業協同組合が1984年に開園したが、敷地内にあるいけすの老朽化や高齢化などで漁協が市に閉園を申し出た。施設の廃止により、今後はNPO法人「おさかなポストの会」の飼育管理事務所で対面方式での引き取りになる。

※「川崎市の主な動き」は川崎地方自治研究センターのホームページ「市政ウォッチャー」からの抜粋です。